



駿河湾のイカ釣り漁 チョロ (イカ一本釣り漁船) (沼津市大平 鈴木真司氏 画)

寄贈資料の中から

イカ釣り漁の絵

今回は、平成23年度企画展「船上の道具とくらし」で展示中の、2枚の絵を紹介します。

これを描かれた鈴木真司さんは、昭和10年の生まれで、沼津市我入道がにゅうどうの出身です。平成17年9月発行の資料館だより(通巻172号)で紹介したチャカ船など、ご自分で作られた漁船の模型4艘を、平成8年から平成21年にかけて、当館へご寄贈くださいました。それらの模型が、漁師が使う船上の道具を細かく再現していることから、本年度にあらためて使い方などを教えていただきました。

そうして伺ったお話は、当時の漁の様子や船上での漁師の工夫など、経験した人でなければわからないことばかりでした。そのため鈴木さんは、小学校3年生ごろから中学生まで、お父さんと一緒に漁へ出かけた昭和20年代前半を思い出し、ご自分の記憶の中の光景を、描いて見せてくださいました。

描かれているのは、我入道のチョロという船と、チャカという船(次ページ)で、ともに個人で行う小規模

の漁に使う、木造和船です。

チョロは1~2人乗りの無動力船で、櫓ろや帆を使って走ります。おそらく明治以前から使われていて、エンジンがすでに普及していたこの当時としては、古い形の船でした。絵は真夜中の、漁を始めた頃の風景です。集魚灯に集まったイカの群が船を取り巻き、遠くには他の漁船の灯あかりが見えます。当時はバッテリーによる電気式の集魚灯を使いました。

チャカは1~4人乗りで、櫓ろ漕ぎや帆走はんそうもしますが、主にエンジンの動力で走ります。そのため駿河湾内を広く漁場とすることができ、大正時代末から昭和25、6年まで活躍しました。

戦争中に多くの成年男性が出征し、漁が少なかったことから、終戦直後の駿河湾ではあらゆる魚が豊漁となりました。我入道では地元で作られたエンジンを積んだチャカが、釣り漁を盛んにしたことを、当時を知る人は語ってくれます。



駿河湾のイカ釣り漁 チャカ（電気着火式発動機搭載小型漁船）

明け方近くの漁を終える頃の風景である。周囲が明るくなるとともにバッテリーも減り、集魚灯の灯りが小さくなっている。イカがたくさん釣れ、船が重たく沈んでいる様子を描いている。（沼津市大平 鈴木真司氏 画）

## 駿河湾の漁

### 鈴木真司さんの漁話

#### 船上の道具とくらし

父は新玉丸あらたままるという船元ふなもとをしていた。昭和10年に駿河湾の中（ウチウミ）で漁をしようということで、この絵のチャカを作った。この船は我入道稲荷町の船大工、岩崎音吉さんが作った。エンジンは我入道にあった山本鉄工所で買って据えた、電気着火式発動機だった。中学生あたりまでは、父とチャカに乗っていた。

〈イカ釣り漁〉戦争中は魚を捕らとなかったもので、終戦後は夕方海に行くと、イカが水面のあちこちで潮を吹いていた。それぐらいイカがいた。捕らないでいると増える。あとからあとから捕れるので、魚市場へ行っても、イカをつかんであげるぐらいだった。イカなどは船尾や中央の甲板かんばんに置き、カメ（魚槽）ぎょそうに入れることは少なかった。スミを吐いて汚れると値が下がるので、ときどきジョーズ（水桶）みずおけで水を掛けた。あまり捕れないときには、セイロ（50×25 cmぐらい）を持っていき、イカをきれいに並べておいた。下が竹で、イカの汁が流れるようになっているので、傷がつかないし値もよく売れた。イカは、重ねるとそこが白くなる

が、1匹1匹並べると、いつまでも赤くなっている。

〈船の魚槽〉カメはめったに使わないが、狩野川でクロダイを釣ったときには活かしておいた。張った海水をきれいに保つため、カメの底に海水が入り出すよう穴が開いている。その穴には魚が逃げないように、細かい網をつけた栓せんがしてある。カメにはカメブタといって蓋をするが、カメの縁に溝があり、甲板に降って蓋の隙間から入る雨が、カメに溜まらず、船外へ流れて出る構造になっている。

〈雨の中の仕事〉あまりひどく降るときに漁はしないが、冬に釣っていて雨が降り、すごく冷たくなるときは、積んである道具でテントを張った。チャカには帆柱が2本ある。漁をしているときに帆はまかない（張らない）ので、タツという支柱を立てて帆柱を横に渡し、シートをかけて雨除けよに使った。

〈風除けのコモ〉イカリをうって漁をしているときに冬場の風が吹くと、コモで風除けをした。長い道具の柄を掛け渡して、釣りをする背後を覆うようコモを立てかける（次ページ図を参照）。船から外へ手を出して魚を釣るので、これがあるとないとでは、寒さがうんと違った。海の風がうんと冷たい冬場だけしか使わない。



## 資料館からのお知らせ

### 企画展の開催について

本年度の企画展「船上の道具とくらし」を平成23年11月3日から来年の2月26日までの日程で開催しています。



館所蔵の重要有形民俗文化財「沼津内浦・静浦及び周辺地域の漁撈用具」コレクションの中から船上用具を紹介しています。

### 歴民講座の開催について

平成23年11月27日（日）に市立図書館視聴覚ホールにおいて、歴民講座「漁師さんと語る船でのくらし」を開催しました。



### 体験学習・チャカー運転実演の開催について

#### ・体験学習「漁師さんに教えてもらう結びの技」

元漁師さんに、漁で使う綱の縛り方や、釣糸の結び方を教わりました。



#### ・実演「船の発動機チャカーの運転実演」

古い石油発動機の再現に携わっている市内大岡の野津和男さんに、我入道で開発された小型漁船用の石油発動機「チャカー」の運転実演をしていただきました。

また、野津さんのご好意で、昔懐かしいポンポン船も登場しました。



### 沼津市歴史民俗資料館だより

2011.12.25 発行 Vol.36 No.3(通巻192号)

編集・発行 〒410-0822 沼津市下香貫島郷2802-1

沼津御用邸記念公園内

沼津市歴史民俗資料館

TEL 055-932-6266

FAX 055-934-2436

URL:<http://www.city.numazu.shizuoka.jp/kurashi/sisetu/rekimin/index.htm>

E-mail:[cul-rekimin@city.numazu.lg.jp](mailto:cul-rekimin@city.numazu.lg.jp)